

# 顕彰状

鳥越文蔵氏は、1931年長崎県佐世保市に生まれ、1956年早稲田大学第一文学部演劇専修を卒業するとともに、大学院文学研究科芸術学（演劇）専攻に進み、1959年早稲田大学文学部助手に就任し、歌舞伎研究の泰斗河竹繁俊（演劇博物館第2代館長）、郡司正勝、両教授を生涯の師とし、元禄歌舞伎の文献学的研究の徹底を志した。全国隈なく資料を博搜する中で、学内の先人は言うに及ばず、学外の先学同学から多くを学んだ。1962年から2年間、英国ケンブリッジ大学に講師として派遣され、以後外国人教育にも力を入れ、その後も含めて数多くの外国人の日本演劇研究者を育てた。帰国後、文学部講師、助教授を経て、1974年教授に就任した。

その後の氏は、学問の発展のためには、国境も、国内の大学間の壁も取り払い、研究者が資料を共有しあう必要があること、演劇資料の宝庫演劇博物館が率先してそれを推進すべきことを、学内外の先学に熱心に説いた。早稲田大学・京都大学・東京大学出身者を中心とする数十名の研究者によって、近世演劇基礎資料の二大集成、『歌舞伎評判記集成』（第1期全11巻、1972年～77年）、『義太夫年表 近世篇』（全8巻 1979年～90年）の刊行が実現した原動力に、事務局を担当した鳥越氏の学問に対する情熱があった。氏個人の著書、編書は数多いが、1991年刊『元禄歌舞伎攷』では、同年度芸術選奨文部大臣賞を受賞した。

1988年鳥越氏は演劇博物館第5代館長に就任し、『特別資料目録』1～6（芝居番付4冊、能・狂言篇、人形浄瑠璃篇）、『芝居絵図録』I～VI、その他の刊行で、演劇博物館所蔵貴重資料の完全な形での公開を一挙に進めた。また学外機関に呼びかけ、各地に提携館をつくり、演劇資料の保管、公開、普及のためのネットワーク形成を実現、その結果演劇博物館は改めて世界的な脚光を浴びることになった。

創業者坪内逍遙の「東西古今の演劇資料を一室に集めて比較研究を可能ならしめる」という演劇博物館の方針が、デジタルネットワークにより実現に至ったことを、演劇博物館創立70周年記念式典（1998年）で宣言した翌1999年春に退職し、2002年からはNPO法人人形浄瑠璃文楽座初代理事長として活躍を続けている。

氏が半世紀近くにわたって取り組んだ演劇基礎資料の整理普及作業の数々が、国の内外に枚挙に暇ないほど多数の優秀な人材を生み、早稲田の演劇研究を充実させ、2002年度に演劇博物館・文学研究科演劇映像専攻を中心に応募した21世紀COEプログラム「演劇の総合的研究と演劇学の確立」の採択を導き出したことは言を俟たない。

以上の研究業績と早稲田大学に対する貢献を称え、早稲田大学は名誉教授鳥越文蔵氏を早稲田大学芸術功労者として永くその栄誉を顕彰するものである。

2004年3月25日

早稲田大学